



Japan Boxing Commission

Tokyo Dome 1-3-61 Bunkyo-ku, Tokyo, Japan

Tel: 813-3816-5761 Fax: 813-3816-5760

JBC の検証並びに試合結果の変更等について

一般財団法人日本ボクシングコミッション（JBC）は、ミツキボクシングジムの要請を受け、2026年7月12日堺市産業振興センターにて行われたジェイアール・ラクイネル対健文トーレス（以下、「トーレス」という）戦に関して下記の通り検証を行い、試合結果を変更する。

記

（１） 検証対象試合

2026年7月12日 堺市産業振興センター

ジェイアール・ラクイネル（比国）対健文トーレス（ミツキ）8回戦

結果：ジェイアール・ラクイネルのTKO1ラウンド終了

（２） 検証方法

ア 当該試合の担当役員等からヒアリング

イ ビデオによる検証

（３） 検証実施者

JBC 事務局員並びに試合役員

（４） 検証（事実関係の整理）

ア 1ラウンド2分7秒トーレスが1回目のダウンを喫す

イ ラウンド終了10秒前の拍子木が鳴らされた

ウ 1ラウンド2分58秒トーレス2回目のダウンを喫す

エ カウント終了後にラウンド終了のゴングが鳴らされず、試合が続行される

オ 3分14秒にトーレス3回目のダウンを喫す

カ 3分19秒にラウンド終了のゴングが鳴らされたがレフェリーはカウントを継続し試合は続行された

キ 3分34秒レフェリーがタイムを要請し、ラウンドが終了した
ク インターバルを含む4分の休憩がトーレスに与えられたが、トーレス陣営は棄権した

(5) 検証（ヒアリング等）

ア 信岡 克夫（チーフタイムキーパー）

トーレスの1回目のダウン後、ラウンド終了のゴングを鳴らす準備をしていたが、2回目のダウンがあり混乱し終了ゴングを鳴らせなかった。

その後3度目のトーレスのダウン中、スーパーバイザーよりラウンド時間が超過していることから終了ゴングを促され、鳴らした。

イ 植村 将人（レフェリー）

10秒前の拍子木は確認していた。その後ダウンがあり通常通りダウン宣告しカウントをした。ボックスをかけた時、すぐさま終了ゴングが鳴るとの認識はあったが、鳴らされなかったので続行した。続行後すぐにトーレス3回目のダウンがあり、ダウン宣告し、カウントをした。カウント中、ゴングには気づかなかった。

ウ 岡根 英信（スーパーバイザー）

2回目のダウン後、続行時に終了ゴングが鳴らなかったが。すぐに3度目のダウンがあり、そのカウント中に終了ゴングを鳴らすよう指示した。

2 検証結果

(1) チーフタイムキーパーのルール違反

すべてのラウンドにおいてノックダウンはゴングで救われないルールとなっている（JBC ルール第119条第2号第5項）。にもかかわらずトーレスの2回目のダウン後において再開（ボックス）命令後すぐさま終了ゴングを鳴らさなかった。

(2) レフェリーのルール違反

ア レフェリーは、トーレス2度目のダウンの再開命令直後、1ラウンド終了ゴングが鳴ることはルールとして理解していなければならない。当該レフェリーは当該ダウン前にラウンド終了10秒前の拍子木を認識しており、また、当然終了ゴングが鳴らされることは予期しておかなければならない状況であった。

イ レフェリーは、アの状況であるにも関わらず、トーレスに対し3度目のダウンを通告し、カウントをした。

(3) スーパーバイザーの責任

スーパーバイザーは、トーレス2回目のダウンの再開後、1ラウンド終了ゴングが鳴らされなかったことを現認し、すぐさま終了ゴングを鳴らす指示をすべきであった。

3 JBC の結論

以上検証の結果、トーレス 2 度目のダウン後、レフェリーの再開の合図（ボックス）をもって 1 ラウンドは終了となるところ、チーフタイムキーパーのミスにより続行されたことは明白である。また、レフェリーは、ラウンド終了 10 秒前の拍子木を現認しており、2 回目のダウン再開後、タイムをかけるなど、3 度目のトーレスのダウンを防止できる状況にあった。

以上より、本件は JBC ルールの適用を著しく誤ったものと裁定せざるを得ず、当該試合結果をノーコンテスト（JBC ルール第 124 条 1 項⑥）と変更する。

4 処分

倫理委員会規程、制裁規程に基づき当該関係者への処分を実施する。

- (1) チーフタイムキーパー 信岡 克夫
ライセンス停止 3 か月（制裁規程第 3 条第 3 項⑤）
- (2) レフェリー 植村 将人
厳重注意（制裁規程第 3 条第 3 項①）
- (3) スーパーバイザー 岡根 英信
厳重注意（制裁規程第 3 条第 3 項①）

なお JBC は試合役員への再教育の実施等により再発の防止に努めてまいります。

以上

2026 年 10 月 16 日

一般財団法人日本ボクシングコミッション

本部事務局長 安河内 剛